



北海道教区報

第584号
発行所
天理教北海道教務支庁
札幌市中央区南8条西11丁目
電話 011 (561) 1148
FAX 011 (561) 1190
E-mail tenrikyo.hk@gmail.com
ホームページ
<https://tenrikyohk.com>

すべて喜び
すべておたすけ
北海道教区
教祖140年祭 北海道教区スローガン

謹賀新年

常々は、「胸から胸へ」と、おちばの思いをお届けし
心通わす丹精と小さな勇気を積み重ねましょう

布教は、とにかく実践「日常化と積み重ね」
求道は、教えと熱を伝える「研修と伝道」
たすけあいはいは、悩みに寄り添い向き合う「親身の支援」
災害対策は、「ひのきしんの実践と訓練」 装備と備蓄

暮らしのすべてにひながたをいただいで
『すべて喜び すべておたすけ』

教区長 奥村尚人



北海道教区のホームページ <<https://tenrikyohk.com>> で教区報がご覧頂けます

各部各会より 新年のご挨拶



教区主事、各部各会より謹んで立教186年の新春をお慶び申し上げます。

本年は教祖140年祭に向かう三年千日の第一歩を踏み出す年となりました。



笹田 道継

集会員・喜びおたすけ委員会

「ひながたの道」を求めて

集会員という立場をお与えいただき、間近で真柱様御自らご発布くださった「論達第四号」を聞かせてもらい、「ひながたの道を通らねばひながた要らん。」というお言葉に、言いようもない感動が湧き起こりました。

今まではひながたと聞いて頭の中を巡るのは、貧に落ちきられた道中、やっと手に入ったお米を惜しげもなく乞うものに見える、その教祖のお姿です。

このひながたは果たして誰でも通れるひながたでしょうか。少なくとも私には自信がありません。それではあきらめてしまふのか。そうすると「ひながたの道より道が無いで。」と言われた教祖の御心に反してしまふ。この堂々巡りのような思案



支部長ねりあい

を、随分と若い頃から考えてきました。答えの緒すら見つかりませんでした。

しかし、久しぶりに聞かせて頂いた真柱様の肉声（にくこゑ）が私の心に反響を起し、教祖はわざわざ通れないひながたを通れと言っているのではない、今のおまえの成人にふさわしいひながたを考えてみよ、ということではないか。明日食べるお米がないと

いう極限の状況では無理だとしても、余裕のあるものならば離すことはできる。

ひながたの道に照らせば、自分のものと思っていたことやものは、本当に私のものなのか。全ては神様からのかりものであつて、本来は分け合つて使うものではないのかということに気づきました。

5年ほど前、さあ神殿ふしんに取りかかろうと言うときに、胆振東部大地震に遭い、2階建ての大きな物置が損傷し、取り壊さなければならなくなりました。時が経ち今やガラクタと化した膨大なものを眺めていると、我が心にたまりにたまったほこりをそこに見たのです。これではふしんには取りかかれぬ。先ずはこのガラクタと共に我が心のほこりを払い、そこから始めなければならぬ。以来、多くの方の協力の下、教会内のものの整理と掃除に明け暮れ、ふしんも無事に完成しました。何とかスタート地点が見えてきた今、小さくても確実な一歩を踏み出そうと思ひます。

ちかみちもよくもこふまんないよふにたゞ一すぢのほんみちにぞよ おふでさき 五号 30

総務部



高橋 太志

総務部には、企画運営課、おぢばがえり推進課があり、また、「喜びおたすけ委員会」、「運営委員会」、「庁舎ひのきしん」などのお手伝いも致しております。

この度、教祖140年祭の年祭活動が始まり、部員も増員させていただきました。

「すべて喜びすべておたすけ北海道教区」という北海道教区のスローガンで歩ませていただいておりますが、地域活動の中の年祭活動が活発に行われるようつとめてまいります。本年もよろしくお願い致します。



缶バッジ梱包作業

庁舎ひのきしん



12月13日、札幌北西支部の皆様により庁舎内を清掃下さいました。大変寒い中、真実のひのきしんを頂き誠にありがとうございました。

庶務部・代表社友



加地 道喜

は59歳ですから、そのお話には勇気づけられますね」と発言されましたが、先生の破顔が浮かんでまいります。私もまた、うれしくなってきました。

確かに六十半ばの私にして、物忘れは多くなってきましたし、頭の中の考えと、発言する内容とが乖離する時があり、半ば呆然とすることもしばしばあります。ですが、その一方で、人の話をよく聞くようになり、即断するのでは無く、積み重ねた思考によって物事を判断する時もあるような気がします。勿論、黒川氏が言う「脳の成熟」は、ただ単に年齢を積み重ねれば良いというものでもなく、例えば、何らかの向上心、探究心は必要かと思えます。『すきと蛇足で失礼します。』すきと

3年ほど前にベストセラーとなった『妻のトリセツ』。著者は人工知能研究者、随筆家である黒川伊保子氏。内容は、脳科学の立場から女性脳の仕組みを前提に妻の不機嫌、怒りの理由を解明し、夫側からの対策をまとめた、妻の取扱説明書とのこと。その黒川氏と道友社社長松村義司氏との対談が、最新刊の『すきと39号』に掲載されました。その対談の中で次の黒川氏の発言が目をつきました。

「脳を一つのエンジンに見立てると、若いときの脳というのは高速で回転しますが、高速すぎてギアが噛み合っていない状態です。ところが年齢を重ね、多くの成功や失敗を経験するなかで、脳は適正な速度を理解し、ギアが噛み合う速さで廻るようになる。脳が一番良い状態にまで成熟するのは60代なんですよ。」

いみじくも松村社長、「いま私



社友研修会

阿川 今もですか。

小三治 しよっちゆうですよ。それをどう解決するかで、日夜悩んでいる。

阿川 満足りくことはない？

阿川 なんだか勇んでまいりました。

本年も布教活動に、修理丹精にと、『天理時報』をはじめ、お道の書籍をご利用頂き、またその記事の感動を廻りの方々に伝え頂きたく存じます。どうぞよろしくお願い致します。

教務部



大野 成一

今、流れている曲から「幸せのテンプレート」という歌詞が耳に入りました。「幸せのテンプレート」って、どんなテンプレートだろう？と、つい考えてしまいました。思えば私も、教務という御用に携わつてから、ずいぶん長くりますが常に、テンプレートファイルの作成に思いを寄せていたように思います。なぜなら、法人願書は御本部の承認をいただくと共に、県庁（道庁）、法務局との関わりをもつものであります。そうした時に、一定の書式を作っておけば、繰り返し書類を作成する人にとつては、実に便利なものとなるからであります。

テンプレートを作成するに当たっては、利用する人があまり考えなくても、書類ができることを念頭において作ることが重要となってきます。自分が使うのであれば、少し手を抜いても問題はないが、他人が使うとなると、そうはいかないからである。そうしたファイルを作り上げた時は、嬉しくもなりますが、もっと嬉しく感じるのは、他の人が、それを活用し、事が順調に運ぶ時であります。そこが、テンプレートとしての大きな役割だと感じます。

しかしながら、全てにおいて万全というわけには、いきません。時には、バージョンアップが必要な事も出てきます。それには手間暇を惜しんでいては、前には進みません。

いよいよ年祭活動がスタートしました。論達第四号の中に「この50年にわたるひながたこそ、陽気ぐらしへと進むただ一条の道である。」とあります。この道を信じて歩む私たちは、教祖50年のひながたの道が、お手本であります。その親心に添いきり、仕切つて進む旬をお与えただいております。教区教務部一同、この旬の理に相応しい歩みを心がけ、願書のお世話取りはもちろん、そこに心のバージョンアップも目指していきたいものであります。

本年も、教務部の上に、皆様のお力添えを心よりお願いいたします。

布教部



内田 誠司



デーンがけいをに

さあ、いよいよ教祖140年祭の年祭活動が始まりますね。昨年ご発布頂きました論達第四号は、真柱様直接のお声で聞かせて下さいました。そのお姿を拝し、私たちに對するご期待を思うと、感激と共に勇気をいただいで感動を覚え、心震える時間でありました。年祭の意味やどういう気持ちで勤めるのか分からない方に感じてもらうため、その材料として利用してほしいとの親心もおかけ下さっています。しっかりと読み込み実動を



学習会おしえみ

していきましよう。

昨年私自身布教部長として未熟者でただただ助走で終わったように感じています。布教部としては「元氣な教会を目指そう！」をテーマの一つにしています。今年は年祭活動の動きの一助になれるよう、布教講話や教理勉強、みおしえ学習会等を開催していこうと相談しています。一人ひとりが心定めされている実動が進むよう、また各支部として布教活動のヒントになるような、お互いの意見を出し合っつねりあつていきたいものです。表統領先生はこの度の年

福祉厚生部



五十嵐 仁

祭活動をお道の正念場だとも言われています。1年目が終わった、2年目が終わった、もう3年目でも出来ないまま年祭を迎えてしまったということが起こらないよう、元気をだして行きましよう。スタートダッシュですよ！

5年前のこと。1年生と5才の姉妹、5年生と4年生の兄弟、この里子に加え、ある方の依頼で40代の男性Nさんを預かることになったのです。このNさんは、コミュニケーションがとても下手で、どこへ行つても人間関係が上手く行かず、仕事も長続きせず、その都度家族に金銭的に迷惑をかけ、親兄弟から縁を切られた人です。出来れば少しでも働いて、次へのステップとされるようにと半年間の期限をつけさせてもらいました。



研修会委員児童民生よく

始めて教会に来られた時、Nさんは人の目を見ることができず、挨拶もモゾモゾと何を言っているのかわかりません。こちらから話しかけないと、自分からは何も喋らないのです。家内は「私こんな暗い人見たことない。」と言ひ、本当にその通りで、これは働くのは無理

かもしれないと思ひました。半年間教会にいて少しでも元氣になつてもらえば良い。そういう気持ちでお世話取りさせてもらおう、と家内と話しました。私は、最初に神殿掃除を教えました。とつてもよくやつて、

上段をピカピカになるまで丁寧に拭いてくれます。家内は、教会内の掃除を教えました。すぐ綺麗にしてくれます。母が外回りの掃除や整理に連れて行きました。母は、「この人は立派な仕事をする人だ。」と言ひ、「こんなに丁寧な仕事をするのに、どうして仕事長続きしなかったの？」と尋ねると彼は、「自分は人が何を考えているかわくわからない。だから、怒鳴られる、そしたら怖くて仕事行けなくなります。」と。「そうか、じゃあ暫く教会のひのきしんで行こう！」となり私も家内もこの人は仕事に行くのは無理だろうと思つていました。ところが一か月ほどで別人のようになっていくのです。

ある日、教会に戻ると、5才の女の子がNさんの膝の上を抱つたさテレビを見ているのです。1年生のお姉ちゃんが「次私の番」と言つて交代します。抱つたさされている方も、している方もとつても幸せそうです。今度は、風呂場から大きな笑い声が聞こえてきます。男の子たちとNさんが一緒にお風呂に

入っているのです。とっても楽しそうでした。私は毎晩寝る前に男子の部屋をチェックします。すると、2つ布団を並べていたのが、3つになっていました。Nさんが自分の部屋から布団運び、一緒に寝ているのです。スヤスヤと。

その頃から食事の時には、大きな声で笑ったり話したりする様になってきたのです。これなら働く事が出来るかもと思い、信者さんの経営する会社を紹介しました。半年間の契約で皆勤賞でした。その後、社長に惜しまれて退職し、自分で見つけた道東の会社に就職しました。

「やっとな誰にも迷惑をかけるいで生きて行く自信が出来ました。この恩は忘れません。」皆に見送られての出発でした。今でも子供たちの誕生日にはプレゼントが送られてきます。

私たちは、強く感じるのは、教会に来る人は、偶然来たわけでもなく、行政が連れてきたのでもない。親神様が手を引って張って連れて帰って来てくれるのだと。

災害救援ひのきしん隊



三幣 敦志

昨年の道内は、甚大な災害はございませんでしたが、6月末

に旭川市ペーパン川の堤防が決壊し、近隣一帯の農地や家屋に大きな被害が生じました。

また、7月から9月にかけて、幾度となく地震や豪雨被害が各地で見られ、支部内でも個人で救援・復旧作業にご尽力されたかと存じます。北海道では、冬季の豪雪という災害も懸念されます。

真柱様は「諭達第四号」において「頻発する自然災害や疫病」を基に心の入れ替えと陽気ぐらしの生き方を諭され、ひのきしんについては、災救援50周年記念大会において「親神様から頂戴するご守護の数々に対する感謝の気持ち、それをする人の心の中にあるかどうかということが、ひのきしんをするうえで一番大切な点であります。」と示下さいました。

道内は、大難を小難にご守護

頂き、大きな親心で無難をお見せ頂いています。

この三年千日、おやさまのひながたを常に心におき、諭達に沿って、おやさまにお喜び頂けるたすけ一条の道を、一手一つにつとめて参りたいと存じます。

更には、災救援員として、一ようぼくとして、年祭活動1年目の本年を、つとめとさづけの実践と地域へ向けての親身に寄り添ったひのきしんの態度で励んでまいります。必ずお見せ頂ける「成程という日」を目指し、支部隊長はじめ道内隊員が一丸となつて、ご恩報じに邁進してまいりたいと存じます。

どうぞ本年も変わらず、災救援活動の上にお力添え賜りますようよろしくお願い申し上げます。



平時訓練

基礎講座



佐藤 元展

基礎講座は、講師のお話とビデオを通して、天理教の教えを分かりやすく、丁寧の説明させていただき、天理教のことをご存知の方はもちろん、まったく初めての方にも親しみやすい内容になっております。

また、当教区では設置当初より、『北からの風を』の思いの下、基礎講座をおちばへの入口と位置づけて取り組ませていただいております。

知人や教会の勧めから受講をされる方もありますが、混迷を極める現代社会において、生き方を見直す心の拠り所として、インターネット等を通じ、天理教の教えに興味を持ち受講される方もおられます。

また、教会長であつても、受講の度に新たな気づきがある、何度も受講して下さる方もおられます。基礎講座では、経験豊かな講師のお話を通して、親神様・教祖の深い親心を



基礎講座前のヨガ体験

感じ、天理教が目指す『陽気ぐらし』に触れることが出来ると思えます。

昨年は、教務支庁会場のみで開催となりましたが、今年は各地会場での開催も計画しております。幅広い層の方に一人でも多く受講頂けるよう、また、教祖140年祭活動の上において、おたすけ・にをいがけの一助として、基礎講座をご活用頂けることを願っております。

本年も多くの方に基礎講座を受講いただけるよう、事務局係員一同心よりお待ちしております。

育成部



和田 与志男

心新たに踏み出す旬、気持ちを引き締めて、次代を担う若年層の育成と「よきこいソールン祭りのひのきしん」「合唱団」「道の教職員の集い」「雅楽講習会」など諸活動の上に尽力させて頂きたいと思えます。

さて、私が学生担当委員会で活動していた時、学生会発足50周年を迎えた記念大会で真柱様は「育てる者の心構え」について諄々とお話下され、「先に立つ者の成人」を強調されました。私たち、北海道のこの地で育成を担わせて頂く者にとつて、まず自らが日々陽気ぐらしを



合唱団練習

践し、若年層の方々が後々あらかじょうりよう、みちのだいとして教会に繋がるよう、共に歩み丹精していくと同時に、道の後継者を育てる意味で各会との連携を強化し、育成体制、協力体制がスムーズに展開されるよう努力させて頂きたいと思えます。

若年層の育成を通して、また当部の諸活動の上に、共に成人の道を歩ませて頂くことを忘れて、論達をご発布下された初年度、思い出多い年になるよう精一杯つとめさせて頂きます。今年もよろしくお願い致します。

少年会



大脇 直丸

昨年は少年ひのきしん隊50年という節目の年にあたり、各支部育成委員、直属団の先生方のご協力をいただき、北海道教区団として本部練成会に参加させて頂いた事が出来ました。

誠にありがとうございます。本年も会員さん達に喜んでもらえる様にとめて参ります。大勢が集まって行事を行うことが難しい昨今、各支部の先生方におかれましては、何とか支部内での少年会活動に重点をおき、実施して頂けるとありがたいと思っております。

その中で本部でも提唱しております「ひのきしん」を通してお道の素晴らしさ、喜びを伝えて頂き、それぞれ一人一人の大人が育成者としての思いを持つ



少年ひのきしん隊

て会員さん達に接して頂けたらありがたいです。

教区としても、少ひ、こどもおぢばがえり、キャンプなどを通して一人でも多くの会員がこれのお道に繋がってもらえる様にとめて参ります。本年も皆様のご協力よろしくお願い致します。

青年会



岡田 莖貴

ただいま当会では、活動方針に「みなさんのおかげです」を掲げ、来年の8月31日に開催予定の「どさんこ総会」に向けて活動を推し進めております。

各支部青年会の後押しを頂き、教区青年会は一步ずつ歩み出すことができっております。

当初は、「みんな世界たすけへの挑戦に踏み出すんだ」という気持ちがありつつも、コロナ禍により「これまで諸先輩方が築き上げてきた土台が崩れ去ってしまったのではないかと、漠然とした不安を抱えておりました。こうした考えから、

瑣末なことで周囲の人達や環境に不足を感じてしまい、活動を進めていても目に見えない焦燥感が募りました。そうした中、青年会本部署の行部員研修合宿にて「たとえ1

に戻ったとしても、決して全てがゼロになつてしまつたわけではない」という委員さんの言葉



除草ひのきしん

に、自身の思いを改めることができました。今も周りを見渡せば同世代の仲間がいてくれますし、活動場所はいたるところにあります。今までの心の向きが信仰的なものではなく、自分を中心とした心遣いになっていくことに恥ずかしさを覚え深く反省いたしました。

今一度、与えられた環境や周囲の方々、そして常にご守護くださっている親神様への感謝の気持ちを忘れずに、仲間とともに信仰を深めつつ、各活動に全力で取り組んで参ります。

青年会活動を推し進めることができるのは、みなさんのおかげです！本年もお力添えの程、心よりお願い申し上げます。

婦人会



奥村 とう子

行事活動を中止せざるを得ない状況が続く中、新体制となり変化し精査されている今般、婦人会として本会の思いに沿い、

今年もご理解ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

行事活動を中止せざるを得ない状況が続く中、新体制となり変化し精査されている今般、婦人会として本会の思いに沿い、婦人会員が丹精の心で育ち育てる活動とは、どういう形なのだろうか。「これまでと同じように教区婦人会の行事を再開しなければならぬのだろうか。」などと思索し、模索、検討をしております。



支部主任講習会

き、共々に勇んで進めますよう計画しております。

また、しらゆき会、ままつぶの集いは現状に合わせながら、わくわくいキイキ出来る活動を考えております。更には、各支部主任さんと直接お会いして、学びと感動を共有出来るよ

学生担当委員会



高橋 清彦

手探りではありますが、活動を再開し、継続に向けて教区・支部学生担当委員の皆様と昨年4月からつとめさせて頂いてきました。

教区学生会委員長・スタッフ

が不在の中、学生担当委員から声をかけさせて頂き行事を開催していくなかで、学生さんの中から「スタッフをやってみよう

興味があります。」という声を聞かせて頂く事ができ遅々とした歩みではありますが、少しずつ前に進んでいる事を実感させて頂いております。

当委員会では「繋ぐ」「伝える」「共に育つ」をかね、学生さ



おつとめ総会

んにしつかりと寄り添い共に喜び合える活動をさせて頂いております。

本年3月28日にはおぢばにて春の学生おぢばがえりの式典が開催されます。直属アワーや前日の事前行事も開催されます。北海道教区からも団参を組み、1人でも多くの学生さんにおぢばに帰って頂きたくお声かけをさせて頂きます。

この紙面をお読み下さる皆様方、どうぞ声掛けとお力添えをお願い致します。私自身何時も理づくりとして声をかけさせて頂いております。

学生会行事、活動に、参加してくれたその子の未来に「なるほど」という姿をお見せ頂ける事を楽しみに今年も喜び勇んだ活動を重ねさせて頂きます。

定例にをいがけ やまびこ会

布教を志す者の会「やまびこ会」では、12月11日、定例の布教活動を行いました。

北国の厳しい冬に突入しましたが、皆さん勇んで参加して下さいました。

次回活動予定

1月16日(月)

午後1時30分教務支庁集合

教話

布教の家北海道寮寮長

鷺津孝幸氏(津軽・月寒)

テーマ

「私とお道、そして布教へ」

ご参加お待ちしております。

(代表藤野充晋)



計報

立教一八五年・令和4年

前教区長夫人

元教区婦人会常任委員

西垣 春代様 12月24日出直(70歳)

雨龍大教区前会長夫人(天龍支部)

本多 敦憲様 11月15日出直(70歳)

日高國分教会会長夫人(日高支部)

西開地 正芳様 11月24日出直(68歳)

聚賢分教会長(札幌東支部)

— 立教 186 年度 —

成人目標

ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう

活動方針

教祖140年祭に向かって

育つ努力、育てる丹精に徹しよう

- ・元なる思召を伝え広めよう
- ・老いも若きもおたすけの喜びを味わおう

「第30回女子青年大会」

しらゆき会
教区女子青年・しらゆき会(境真理委員長)は、11月27日、本部中庭で開催された婦人会本部主催「第30回女子青年大会」に参加した。

「教えを学び 教祖にお喜びいただける日々を感謝の心をおこぼにつなごう」のテーマのもと、国内外から女子青年が親里に集い、北海道教区から94名が帰参。また前日の教区行事には31名が参加した。

式典で挨拶に立たれた中山は、え婦人会長様は、「魅力ある女性を目指して、女子青年活動に積極的に参加し、日々に3つのかどめを実行する事が、女子青年の皆さんの年祭活動になる」と呼びかけられた。

続いて真柱様よりメッセージ



神苑にてひのきしん



を頂戴し、感話や会員代表の誓いが行われ、教祖140年祭へ向けてのさらなる実動を誓いあった。前日26日には、神苑にて落ち葉拾いひのきしんをし、津軽詰所にて自己紹介やゲーム、マスクチェーン作りなどをして親睦

を深めた。

今大会に向けスタッフは、案内ハガキの作成、また教区行事の準備や参加者へのプレゼント作りをして準備を進めてきた。「北海道から離れたおちばで女子青年さんに会えたこと。参加して下さったことが喜びとなりました。」

コロナ禍で何事もなく、行事を開催できたことはあたり前ではないし、これまでにたくさんの方々に支えて頂いた事への感謝の気持ちを忘れないです。参加して下さった方々から喜びの声が聞けて嬉しかった。また「今後は、行事以外でも様々な形で繋がりを作っていききたいです」と境委員長が話した。

女子青年活動のかどめ

- 一、教会へ参拝しましょう
- 一、ひのきしんをしましょう
- 一、にをいがけをしましょう



マスクチェーン作り

新教会長さん紹介

(令和4年11月26日お運び)

十勝支部 北中川分教会(秦野) 奉告祭 12月4日



加藤 雅之 氏 65歳

日高支部 本日高分教会(洲本) 奉告祭 2月16日



清水 勇一 氏 49歳

けいじばん

◎法律に関わる諸問題でのご相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁書記・渡部までご連絡下さい。

◎毎月26日に本部月次祭選擇式を午前10時より行っています。

◎ホームページでは、教区報に未掲載の記事や投稿いただいた記事も随時掲載しています。また記事の投稿もよろしくお願ひ致します。

北海道教務支庁日誌抄

12月1日 青年会 Meeting

2日 一手一つお願いづとめ

支部長会議

地方委員(予算)会議

福祉厚生部

支部担当者会議

3日 任命・事情願書発送

4日 札幌中南支部例会

学生担当委員会

11日 やまびこ会

13日 庁舎ひのきしん

下半期担当者会議 (札幌北西支部)

17日 女子青年例会

18日 会計部会議

19日 布教の家育委員会

23日 教区長婦本

25日 教区長会議

教区祭検討委員会

主事会

26日 運営委員会

27日 本部月次祭選擇式

28日 教区長婦庁 御用納め

●休刊のお知らせ●

2月の北海道教区報は休ませていただきます。